

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 きりん 組	6 月 30 日 (月)	瀧川

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ~ 天気 ~ 太陽の光で遊ぼう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
室内に太陽の光が入ることによってまぶしさや暖かさを 感じる等がある。		
活動スケジュール		環境設定・準備物
時間	内容	
10:00 ~ 10:05	太陽の光やライトが当たると できる物について考える。	<環境設定> ・重さ回子活動の為、机は片付 けておく。 ・しっかり座って話を聞けるよう、 壁に沿って椅子を置き座る。 ・太陽光が弱い時は部屋の 電気を消す。 <準備物> ・椅子 ・部屋にある影ができてその 物
10:05 ~ 10:25	室内に入った太陽光を使い、 影を作って遊ぶこと伝える。 部屋にある物から影を作 りたい物を1つ選ぶ。選んだら ①何を選んだか②どんな影が できると思うかを前を出て発表 する。 ・実際に影を作って観察する。	
10:25 ~ 10:35	影を作って見て①予想通りか 違っていたか②影の色はど うだったかを前を出て発表する。	
10:35 ~ 10:40	同じことを外でやってみたら どうなるか考え、発表する。 ・後日、外に出られる日に 同様のことをやることを 伝える。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・ 天気の中で晴れの天気にも注目し、太陽の光や影について考えたり遊んだりする事を通して探究する機会を作った。 ・ 子ども達自身に影にしたものを決めてもらい、自分の気になった物についてどうなるか考え探究する機会を作った。 ・ 人前で発表する機会を作り、聞いている相手に聞こえる声で話したり、相手の話を聞いたたりする練習をした。 	<p>〈子どもの姿、声〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身で影にしたい物にどんな形になるか、気になるものを送って「丸い形になると思う」「貝がらみたいな影になると思う」と話していた。 ・ 人前で発表する事に緊張し、保育者にくっつく子もいたが、ほきは発表する子もいた。 ・ 影に色がついた子もおり「薄紫になった」と驚いていた。 <p>〈保育者との関わり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 影にした物を向きを変えた時の影の見え方はどうか、場所によって違いはあるか声掛けを行った。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本来は戸外で行う活動だったが暑さで出られない状況の為、室内で行った。室内と戸外での影の見え方の違いについて考える良い機会になった。 ・ 人前で発表することに慣れてほしいと思い、発表する機会を使った。子によってほきは話す子、保育者のサポートが必要な子があり、今後の活動を通してどの子も人前での発表に慣れていけたらと思った。 	<p>電気を消しても、ふっくらと光がまわ (スクリーンを降ろせば) 影のうすさや ふたが、太陽の光の不思議を 知るには充分だったように思う。 保育士の尊重によって、子ども 達も自ら光を探したり 発見を我先に発表しあて しる様子が見られた。わりまじり。 理解の難しい子達にも 興味深い活動だったように感じる。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 きりん 組	1 月 30 日 (金)	瀧川

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ~おかねってなんだろう~ お店屋さんごっこで交換を体験		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
お店屋さんごっこをして遊ぶ等がある。値段を決めて売ったり、電子マネーの機械を作ったりしている。		
活動スケジュール		環境設定・準備物
時間	内容	
10:00	・前回の活動を振り返り、オリジナルのお金の形や、そのお金で何が買えるか、いくらかの価値にするのか考える。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にしている。
10:10	・買い物の実体験を思い出しながら、欲しいものを全部買えない時のことを考える(買えないのはなぜか)。	【活動使用教材】 ・模擬貨幣(紙幣、硬貨) ・オリジナルのお金 ・模擬商品(玩具、絵カードなど) ・値札 ・買い物用のかご または 袋(人数分) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー
10:15	・お店屋さんごっこでも買えない物がある可能性を伝え、活動につなげる。	【事前準備】 ・模擬商品をさまざまな種類(食品、おもちゃ、文具、日用品など)用意する。 ・商品の種類によって値段の幅に差をつけ、子どもたちが「何を優先して買うか」を考えるきっかけを作る。 ・お金の計算が目的ではないため、値段は子どもたちにとって分かりやすく設定する。
10:20	・子どもたちに一定額の模擬貨幣(例:100円分)と買い物かご(袋)を渡し、買い物ごっこを始める。	
10:40	・実施者が店員役となり、子どもたちは限られた予算の中で、欲しい商品を手で選び、購入する。 ・買った物と買えなかった物を振り返り、発表する。	
10:45	・「買ったものリスト」「買えなかったものリスト」をホワイトボードにまとめる。	
10:50	・なぜ、買ったものと買えなかったものがあるのか、お金の量や商品の値段の意味について考えていく。	
11:00	・次回は「必要なもの」と「欲しいもの」について探究することを伝える。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動の振り返り ・模擬貨幣を配り、予算1000円で買い物をする話を話す。 ・グループごとに買い物をする。(店側は保育者がやる) ・予算内で買い物をする。必ず使い切ってもいいし、おつりを残してもいい。 ・振り返り ・次の活動の話をする 	<p>〈子どもの姿・声〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな物をどんどん買おうとするも予算オーバーになる子がいた。 ・理解が早い子は別の値段の物を組み合わせるほいものを決まったり、「ここまでにする。お金残したい」と途中でやめたりしていた。 <p>〈保育者の関わり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の持っているお金で何をどれくらい買えるかわからない子が多かった為、「100を2つなり買える」、「100と△△を合わせてもいいね」と助言し

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・以前の物々交換より本格的な買い物を体験できた。 ・数字は読めてもそれがいくらかどれくらいお金があれば買えるかが難しくわからない子が多かった。 ・金額はどどういう順番で大きくなるのかを伝えたり、「これなら2つまで買えるよ」と助言すると伝わりやすかった。 	<p>グループ毎に予算を考えたから協力して買い物できたのはとても良かった。特にこのクラスは、個性も多種多様で、今回の活動を集団で行うには工夫が必要であった。子ども達相互の個性も(理解力やスキルバラッキや個人差がある中)グループで特長不特長を仲間で見つけあってフォローしていたのはとても良かった。</p>